

多民族国家における教育開発に関する研究

—北部ベトナムの少数民族地域における初等教育の普及とその限界—

平成 21 年入学

参加したフィールドスクール：カメルーンフィールドスクール

調査地（調査国）：ベトナム社会主義共和国

山部 健介

キーワード：教育開発，初等教育，少数民族教育，多民族国家，ベトナム

自分の研究テーマについて

90 年代以降、「万人のための教育（Education for All : EFA）」という合言葉のもと、途上国における教育の普及は教育開発の重要な問題となっている。こうした流れを受け、ベトナムにおいても、91 年 8 月に「The Law on Universalization of Primary Education」を制定し、就学率や修了率の低い北部ベトナムの少数民族地域などで教育の普及に力を入れ、開発業界もこれを支援してきた。その結果、ベトナムは初等教育において約 95%の就学率を達成し、タイ族やムオン族といった少数民族児童の就学率も 90%前後まで上昇した。

しかし一方で、モン族（Hmông）やザオ族（Dao）は、いまだ就学率が 70%にも満たず、修了率はさらに低い。背景には複合的な要因があるが、方法論上の問題に固執する開発業界の指摘には限界がある。そこで開発以前の問題として、国内の少数民族教育政策に対する少数民族側の反応や心理的距離を測定するなかで、問題の根源を明らかにする。ベトナムは憲法上で、少数民族固有の文化や言葉を尊重するとしているが、1980 年の「少数民族文字に対する方針に関する第 53-CP 号決定」において、普通語（普通文字）としてのベトナム語の普及が決定され、少数民族語（少数民族文字）はこの方針を「補佐」するものとされた。そして今日に至るまで、これが少数民族教育の基本方針となっている。こうした政策に対する少数民族側の実情を掘り下げて考えるなかで、多民族国家における教育の普及と開発の難しさについて、ベトナムを事例に提示したい。

フィールドスクールから得られた知見について

フィールドスクールから得られた知見は多いが、そのなかでも、自分の研究テーマに求められるフィールドワークの方法と意義を再考し、試行錯誤できたことは有意義であった。

「フィールドで見たことをそのまま記述するだけでは論文とは言えない」という木村先生の言葉が頭をもたげ、「どのように」自分なりのフィールドワーク術を構築するかということに腐心した。フィールドを眺める→記述する→まとめる、というプロセスを繰り返したが、結果として、論が立ちそうな記述は少なかった。完全な失敗であったが、原因は明白であった。「どのように」という甘い言葉に踊らされてしまったからである。

そもそも「どのように」という問いの立て方が間違えていた。フィールドワークは、ハウツー系で処理できるものではなく、「どのように」以前に答えなければいけない問いがある。フィールドワークが（で）「なぜ必要なのか」、「何を見たいのか」、「何を明らかにしたいのか」といった問いに対して、自分の研究テーマと対話しながら回答できた段階で、「どのように」という問いが立ちあがってくる。フ

フィールドワークにおいては、自分の研究と直接的な接点があるトピックは少なかったが、こうした問いを常に自答しながら、フィールドを眺める必要性を再認識した。今回は研究に従事するものとして落第点であったが、血税の対価として得た知見は、今後の研究にも生きてくるものと確信する。

フィールドスクールで学んだことがどのように研究テーマにいかせるか？

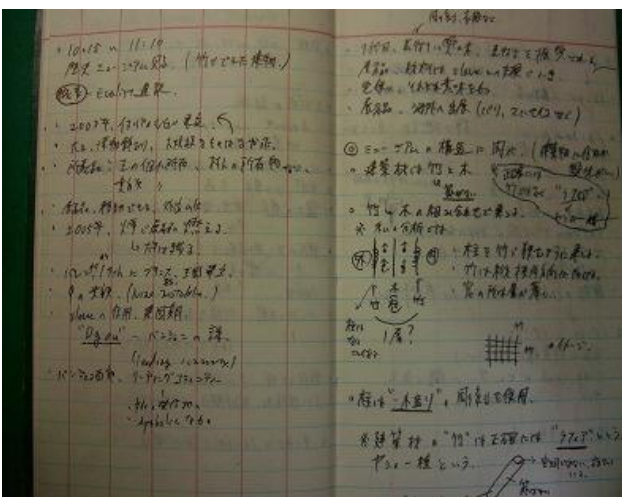
前述した試行錯誤の結果、フィールドを眺め、記述する時の自分の「クセ」も見えてきた。研究テーマからして「開発」、「教育」、「少数民族」といったキーワードに着目しがちであるが、それを地域の全体像の中で位置づけ、再解釈する姿勢が希薄であった。例えば、演習で訪れた Andom 村においては、女性組織による生活改善プロジェクト（キャッサバの品種改良）については詳述していたが、それを村の自然環境や生業形態といった周辺要素と絡めて記述されておらず、村全体のなかでの位置づけが不明確であった。フィールドスクール期間中、他の院生のノートを見せてもらう機会があった。やはり研究関心に応じて、それぞれに「クセ」があるように思われたが、自分とは違う記述の仕方に学んだところは多い。自分の「クセ」とその改善点、また他者の「クセ」から学ぶ必要性を再認識できたことは、来年度からの長期調査にも大いに生かされると思われる。



【写真1】 Andom 村の風景



【写真2】 Dja 川の船渡し場にて



【写真3】 フィールドノートの1ページ。他人には解読不能である。



【写真4】 夕焼け風景。ヤウンデ第一大学にて。